

指定管理者の指定や平戸城懐柔櫓宿泊施設条例の制定についてなどを議論



委員長報告全文はこちらをご覧ください。

総務厚生委員会

「指定管理者の指定について」
（平戸市療育支援センター）「あつたかさん21」

Q 指定管理料を増額しているが、これは、利用者ニーズが多い夕方の時間帯のサービス利用に対応するための人員体制の見直しが必要な要因か。

A 待機者など、これまで利用者のニーズに対応できていなかった部分を充実させるため、人員体制を現在の3名から4名に増員することによる増額が主な要因である。

Q 療育支援センターにおける専門職等の資格所有者の配置基準に対する現在の配置状況はどうなっているのか。

A 配置基準は、児童指導員、保育士または障害福祉サービスに2年以上の経験者となっており、また、作業療法士、言語聴覚士の配置が望ましいと言われている。現在は、児童指導員1名、保育士1名、事務員兼支援員1名の計3名の配置となっている。また、作業療法士は、平戸市民病院から、言語聴覚士は、市内の民間病院からそれぞれ月に1回ずつ来ていただいている。

Q 今後4年間の中で、作業療法士

や言語聴覚士等の専門職の配置や専門職による療育の回数を増やすなど、より内容の充実した療育支援を提供できる体制の整備を図っていただきたい。

A 専門職の配置を含め、指定管理者とも一緒になって、利用者が本来に必要なとする療育支援が提供できるように努力していきたい。

「指定管理者の指定について」
（シルバーワークプラザ）

Q 当該施設は、なぜ指定管理料の債務負担行為が発生しないのか。

A シルバーワークプラザは、条例上は高齢者の就労支援を促進する施設として定められている。しかし、実態はシルバー人材センターの事務所あるいは拠点施設として利用されていることから、管理経費はシルバー人材センターが負担することとしている。

Q この施設がシルバー人材センターの拠点施設として利用されている実態から、現状のように公の施設としてではなく、今後は、法人に無償提供するなど、協議をするべきではないか。

A 指定管理者選定委員会からも、利用実態から、指定管理になじまないのではとの指摘もあつている。今後は、施設の無償譲渡や賃貸借契約などについても、検討・協議していきたい。

平戸市公民館条例の一部改正について

Q 生月町中央公民館の調理室は、面積が広く、使用料が高くなるため、調理室の一部だけ使用した場合は、使用料を分割して算定できないのか。

A 生月町中央公民館の使用料は、平戸市における受益者負担の適正化に関する指針案を基に算定しており、水道、電気、食器類などの備品等の使用も含めて調理室の使用料としている。このため、和室を含めた一部の使用であっても同じ使用料となり、現在のところ分割した使用料は考えていない。ただし、社会教育団体等が使用した場合は減免を行なっている。なお、令和2年度に指針が策定されることから、他の公民館と平準化が図られるよう、令和3年4月に向け、庁内で十分検討していきたい。

農村地域防災減災事業

Q 市内にため池は全部で何カ所あるのか。また、整備が終わっているところは何カ所あるのか。

A ため池は全部で436カ所あり、平成30年度までに点検が済んでいるのは278カ所ある。今回、被災を受け、災害復旧事業で対応する箇所を補正

漁港整備事業県工事負担金

Q 館浦漁港の港内泊地および岸壁の水深を確保することとなった理由は何か。

A 水深は、当該漁港を利用する最大の漁船の喫水によって決まるが、これまでの漁船は、干潮面からマイナス5mで対応できていた。しかし、近年、まき網漁船の大型化に対応するため、マイナス6mが必要になったためである。

港湾単独整備事業

Q 大島港の埋立工事による振動が原因で、家屋等に不具合が生じたため、これに対する補償であるとの説明であるが、事前に調査は行なっていないのか。

A 埋立工事を行う前の平成26年度に事前調査を行なっている。また、道路の補修工事後に事後調査を行い、比較した結果で補償を行うものである。

産業建設文教委員会

平戸市平戸城懐柔櫓宿泊施設条例の制定について

Q 1泊につき宿泊料金が60万円とあるが、当初は15万円との説明であった。積算の根拠は？

A 業者からの計画提案の際に15万円との説明があつたが、優先交渉権者とお城を活用した外国人の誘客など、今後の運営を協議していく中で、1棟貸しでの最高限度額を60万円として算定。食事や体験についてはオプションで行うように考えていると聞いている。

Q 高額の宿泊料であるため、宿泊料に見合う食事の提供はどうするのか。

A 優先交渉権者も、宿泊料に見合った食事を提供しなければと考えており、現在、検討中とのことであるが、外の施設で下ごしらえしたものを、宿泊施設の中で温め直したり、再調理して提供する考えもあると聞いている。また、将来は、町なかにも回遊する仕組みをつくりたいと聞いている。

Q 宿泊者が満足できるサービスを提供するため、平戸の売りは何か。

A 優先交渉権者としては、伝統芸能等を取り入れ、他の地域との差別化を図っていききたいと聞いている。

学校給食管理運営事業

Q 学校給食で地元産品をどの程度使用しているのか。

A 令和元年11月の調査では、平戸市産と長崎県産で75・53%を使用しており、うち純平戸市産は、22・31%となっている。また、年2回調査があるが、平戸市は、冬場の野菜が豊富に出回るため、2月は使用割合が高くなっている。特に、じゃがいも、玉ねぎが多く、しいたけは全施設で平戸市産を使用している。また、水産物については、練り製品も使用しており、平戸新鮮市場等との連携により地産地消に繋がっている。

